

天明町は東を熊本市に隣接し、はるか彼方には雄大な阿蘇の山々を遠望、西は有明海を挟んで雲仙岳の麗容と相對、南に清流緑川、北に金峰の秀容を望み見る熊本平野の中西部に位置する豊かに広がる緑深き田園の町であります。古来、天明町は鎌倉時代の弘安年間、後鳥羽天皇第三皇子、川尻町大慈禪寺の開祖寒巖禪師によって有明に広がる牟田(湿地)を築堤されたことより始まり、以後江戸時代の文久の頃までに漸次干拓されて出来た「日本最古の干拓の町」であります。昭和三十一年九月三十日、隣接する六



日本最古の干拓の町・メロンの里

か村が合併して天明村として発足、昭和四十六年四月一日に町制を施行、面積十九・二八平方キロ、人口一万五百八十九人の町です。往時天明町は、熊本平野を形成した緑川、白川の上流から流れ来た泥砂の永年の推積によって出来た肥沃なる平坦地帯で、西部を有明海に面し、農業漁業を主要産業とした、県民のみならずの台所として古くから発展してまいりました。近年ではハウス野菜の町として、中でも特産のプリンスメロンは遠く関東関西方面へ「熊本メロン」の一番荷として出荷され、味覚の王様として名声を博しています。農業を主産業とする天明町は、昭和

す。また、海の幸をとどける有明海には天明、海路口の二漁港を有し、国の漁港整備計画に合わせ第四次、五次の漁港整備を行ってまいりましたが、五十年から六十年から天明漁港を第六次の五十年計画で、海路口漁港は二か年の局部改良事業で更に漁港施設の整備につとめています。有明海は遠浅でのりやあさり、はまぐり等の海藻、貝類の宝庫として、熊本県の重要な水産資源の場となってきましたが、高度経済成長によって派生した「日本公害列島」の汚名は有明海にも及び、

四十二年に四十八ヘクタールの第一次農業構造改善事業に着手、そのあと直ちに五百ヘクタールの県営圃場整備事業を推進すると共に第二次農業構造改善事業を進め、農事研修センターや野菜選果所等を建設、昭和四十七年には熊本市場へ直通する農免道路を開通。また、昭和四十五年から熊飽地区、四十六年から天明新川地区、五十年から千間江湖地区の湛水防除事業を推進するなど農業生産基盤の整備、農作物物流通の合理化や近代化を進めてまいっています。

近年のりを始めとして、貝類や魚類にも多大の影響を与えるようになっていきました。このため町では「とる漁業からつくる漁業」への転換をはかり、この有明海の自然の宝庫を枯渇から守るべく、稚貝や稚魚の放流を進めてまいっています。紺碧の空と海に包まれた緑深き沃野、日本最古の干拓史をもつ天明町は、その恵まれた自然条件と長い間の干拓で培われてきた「根性と進取」の町民性がうま

橋への経路、更にまた熊本港の背後地として大きくクローズアップされようとしています。これ等の状況を背景に町が進めている施策も「人間尊重」の理念に立って、住みよい「きれいな町、豊かな町、平和な町、進んだ町」を目標に、自然と人間の調和をはかった諸種の施策を積極的に進めています。特に四十九年度から三か年継続で進めている広域簡易水道事業は、町内全域に水道を敷設するもので町有史以来の大事業となっております。

天明町は熊本駅から十三キロ、ハゼの木、紅葉連なる千間塘を南へぬけ県道大牟田、熊本宇土線を一キロ行った所に神風連ゆかりの地新開大神宮があります。創建は後花園天皇の文安元年、伊勢神宮を勧請して建立された由緒ある神宮で、明治維新前まで肥後国において大神宮を奉斎した神社は当宮だけで、土地の人々からは「伊勢宮さん」の呼称で親しまれ、三月二十六日の春季祭、十月十六日の例祭日には近郷近在の人出で賑わいます。この新開大神宮を後に西へ約四キロ、有明海での、阿蘇、雲仙、金峰、宇土半島を一望しての潮干狩、南へ巡れば加勢川、天明新川に糸を垂れる大公所、天明町には、自然と人間がよく調和した緑におおわれた田園都市としての明日が待っています。

(天明町)



▲選果所から積み出されるプリンスメロン



▲神風連ゆかりの神社、新開大神宮



▲簡易水道浄水場



▲天明新川に糸を垂れる大公所



▲天明漁港